

お知らせとお願い

研究課題「硬膜外麻酔が脳波モニタの出力に与える影響」

防衛医科大学校麻酔学講座では、硬膜外麻酔が脳波モニタが表示する値に影響するかどうかの調査を計画しました。

硬膜外麻酔とは、背中から細い管を硬膜外腔という背骨の中にある空間に鎮痛薬を投与して行う麻酔のことで、手術の間と手術の後の痛みを緩和するために行うものです。脳波モニタは、全身麻酔中に患者さんが眠っているかどうかを評価するために利用されます。今回の研究の対象としている脳波モニタは BIS モニタで、BIS モニタは 99 から 0 の数値 (BIS 値) を表示し、数値が大きいほど覚めている可能性が高くなります。

過去の研究で、硬膜外麻酔は BIS 値を低下させると示されていますが、手術が始まる前の時間に調べた研究でした。しかし、手術が終わった後に、硬膜外麻酔が BIS 値に影響するかどうかは明らかにされていません。BIS モニタは全身麻酔を行っている間、つまり手術の終了後まで使いますから、硬膜外麻酔が手術開始後の BIS 値に対する影響を明らかにすることが、麻酔の安全性の向上のために望まれます。

そこで、防衛医科大学校麻酔学講座では、平成 20 年 4 月 1 日から平成 24 年 11 月 30 日の間に全身麻酔 BIS モニタによる脳波測定を行った全身麻酔患者さんを対象として、BIS 値、薬剤の計算上の濃度 (予測濃度)、薬剤投与量などの情報を既存の記録から収集し、硬膜外麻酔の BIS 値への影響を調べます。

本研究は、今後、研究のために患者さんから検体を採取したり、投薬をしたりすることはありません。カルテなどの既存資料のみを用いて調査をする後方視的研究ですので、患者さんに直接、本調査へのご協力をお願いすることはありません。

この研究では、患者さんが特定される情報をいただくことは無く、通常の診療と同様にプライバシーが保護されます。研究結果をまとめて専門の学会や学術雑誌に発表する事がありますが、患者さんのプライバシーは保護されます。平成20年4月1日から平成24年11月30日までの間に防衛医科大学校病院で全身麻酔を受けた方で、ご自身の全身麻酔中の臨床データを研究に使わないで欲しい、というご希望がある方は、下記連絡先までご連絡いただけますようお願いいたします。個人情報保護については、防衛医科大学校個人情報管理者の指導の下で、手術部准教授の池田健彦が厳重に管理等を行います。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、防衛医科大学校病院における診療には全く何の影響もなく、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。

連絡先：防衛医科大学校病院麻酔科

増井 健一

Tel: 04-2995-1211(内線 2359)